

0361

昭和二十五年九月

第二三師団作戦記録

土
田

穰

1210

兵か鮮くほかつた。

又日朝軍が行軍後隊員に集結し際其給養を日本陸自
体の糧秣より綻本の定量通り実施しき可な旨以軍の
補給關係の少將が命令した處モレービ軍司令官は不
服の色を浮べて之に異議を挙げ其の説明を聽り初め立と
悟不した

ソ連兵は水筒を折持して居た者が多くと見ゆかた。空ビン
等を拾つて互に代用して居る者加見受けられた
軍司令官が我師固防司令部(筋筋田長及令)を巡視
中下した惟の命令は建物横の十倉庫前を布のあみを穿
見て日本軍が持ち去りの跡を封印を下さり事で
あら

ソ連兵一般の服装は甚左粗雜であり露營用の毛布が無
く又之を有する者は錦織の半纏のみであつた

二、ソ軍幹部以下の素質

1. 上級将校の素質は其の態度、語学の素養、交渉の爲
の首領等より判断するに大体良好の印象された。

停戦時の処理は頗る迅速であつて且要領を得ていた。

間けは政治的、技術的参加した者が多くいたといふことである
2. 将官級の素質は甚左劣悪で日本軍の下士官程度以下
下士官一思はれる者才なくなかつた
3. 下士官等の素質は般に悪く文字の読めぬ者が多くなかつた
たゞ、駆逐動作の如きは隊伍直すに改めて力を大にし且行

勤務地を久く佔據であります

一般兵の建康市管は並普通であります

軍紀風紀は不良で時行被服革長靴等を盛んに掠奪し又婦女子に対する暴行が頻發され後方輸送の馬車御隊は五十才前後と思はれる老夫が多かつた又多く一歳八十才と見ゆる青年も混じて之を多まらず兵馬廻の充足は相当前苦慮といふ様に思はれたり

三、ソ連の兵器、資源

ソ連の兵器は日本軍のものに比し其の機械化をいたる自動歩兵銃の五式せんたく槍等は旋轉して著しく優秀であるが特

別走行機は南極圏では日本側に一機も立つかないがノルマは偵察機、爆撃機、爆雷機を有して戦闘機數は詳かでないがあまり大したものではない

2. つ軍用車は10K一門を備へ大型轟擊車と有していた

3. 装甲は機械化され戦車を半限軌道を有する牽引車で牽引させられたり

4. 一般歩兵はよく自動小銃を以て武器とされ其の小銃

多くは性能は良はないが命中率は高めを有する牽引車の牽引車を有する車輛である

5. 自動車の大部分は米口製貨物車を有して指揮車は又米口製車で、それを使用して牵引車の牽引車

もあちが性能は米口製車に比し著しく不良である

米口製自動車の機関は一九三九年型と云ふ車があり操縦機械が容易であると云ふ車両車の名前がある

6. 師団の前に侵入して来たソ連軍の服装、其の装備は甚だ貧弱である。軍服はルバニカ式の芸地のもので、長靴はスツラ靴で、般に汚損甚しいものである。綿上靴で木口剝れのものを穿き、そのもののかなくばつた。

食糧は黒パン、塩蔵豚脂。ソーセージ等を食しきり。

7. 其他シート茅等も米口剝れのものが多々見受けられた。之をあまり多く軍の眷属貢持等は重く有病である。眷属は我々に比し、僕らに優秀であるが、服装、靴等は著しく不良であつて、米口からの輸入物貿易に負うせが多いと想めた。

四 我か方の教訓事項

1. 満洲、廻亘の全般的敵情は軍司令部迄止められ毎晩行機密話の師団司令部迄通報せられ、勿論師団の密行方針と軍司令部の意圖を詮説することがあつた。

例へば、師団は孫吳廻亘の防衛布陣地、構築を日暮御内半永久のまゝと造り、如く計画しなる軍司令官は何等理由を示すとなく廻亘構築法による如く決められた。

師団は何等機密を利害の資料を提供せられなかつたので新局、テナガ國際主義的有効期する軍事委員の編成改ひの時期、茅より考へて敵情は勘く早速、之によとはちよがた爲著し軍と同様の状況判断であつたならば、教育用作新軍改等はまたく打つべき手は山あつた。

2. 関東軍の能動力と機動力を従成改ひ茅は尚早明に断絶せざる軍士であつた。

高麗の能動力と機動力の際、123の如きは孫吳より输出せしめたるが、それがたゞ思ふ、哈爾濱より遙く孤立して一ヶ師団を配置し而後其の能動力を有せぬ現軍の状態では結局孤

島上の独立師団の如く猪俣附近に自滅する外はかつて
あらう又若し敵が来るかの場合は於ても哈尔法方面
にてして主力の法郎に参加する機動力も神経力も
防空力も有せぬのであるから結局過るゝ事の少
い事である。

3. 用兵を目前に控えながら国境附近の部隊を常に備戒す
へて勤務せしめたのは不可である。

4. 我軍の兵器、資材は中央部に於ける各種の経済は莫
大らうけれども近代的機械化は得ず筋要如何の
其條件を以て敵に對せしめ多大の犠牲を出させたのは深
い遺憾とする所である。

我師团正面では飛行機、戦車の無かつて車は止むを得ず
とすると対戦車兵器は皆無もあり僅かに多少の逃の
け駆逐車爆薬を以て駆逐車の下に跳び込む車をあぶする
のみである。

ソ連の機械化部隊、機械化砲兵等を眺めて防衛手段
は却はれ一沸の不利益を免れることは果して精神力の
不振との併存するは結構し得る事であらう。
我軍の被服装具等はソ連に比し淮くまであらうが
してさば被服装具等で敵は獲ち得るをあらうか？

5. 我方の教育は差する前見

1. 我軍は教育は確立してあるが停戦の命令
司令官と会見した蘇聯の附近に反対と我推進防衛
の常識は既に既に教習を見て血涙を止めるとか言ふ
やう。彼等は偏に國勢の弱い敵の中を推進して生命
を失つた者である。

然し乍ら推進防衛中には何處を行ふ所を上昇船か

全く不明な者が沢山ある。

対駆逐車肉薄攻撃と称して駆逐車の下へ爆弾を抱っこ突入する者を教へた。車庫突入して自爆した者が多くあるが其の元因は何時迄も駆逐車街通行に横たわるが、彼の改良した駆逐車は簡単な故障を修理して行つた。

坐し方多段の者は放駆逐車の直前へ爆弾を投げたり自分は退避した。

人向性を無視した教育は最初を養はざるとは國難である。彼等は單独で教へられ互通で密行し強化した者を生かしめり代の方に教させたならば厚ん大きな功業を挙げただらう然し他面自尊心を誇調した教育は生命をへかせんじて若さをしめ得ると、必ず死を痛感させた。

我國軍の教育は眞に國家を凌駕す自尊心の上人間性を十分に認めた教育が今少し必要であつた。

機械的注入した丈の教育は、難局に遭遇すると挫けたり、肉薄攻撃車、駆逐車等は單独を以て又他の監視外に於て完全に任務を達成する能な自尊心ある教育を行つたが、又あつた。

機械的説込教育ではなく自發的自尊的教育を多く取入れたが必あつた。

①家用器具と稱し深く金属の中へ納め込んで教育訓練の爲に使用せし銀鏡開始に際して取扱未熟の爲國つて例がある（通称銀鏡等）

旅居附近の陳地は秘密を保持する爲入門を禁止してある工作跡計画は量き現に即した教育は事業が大いに行つた方が適当であつた

6. 駆逐の練成（就て）

ノ節度の編成の方り後方周保の兵馬は割合速かに多く
来たけれども第一線の駆逐用兵馬は充足せぬまゝ弓刀
かつた。就中砲兵の挽具、輸送駄馬の馬具等が
ない爲機動力が制限せられた

12. 人馬の計多く兵馬を配備する事は其勢が最も優
れの時條件は起つた。勘の如き場合に軍馬を馬車等
等より駕籠等特別の教育をするか或は他の方面へ使用した
が宜敷かりた

メ. 在苗原市にはある平時訓練が不足ひあつた。
ソ連に於ては予想箭場附近の住民は敵の突進に際しては
徒足軍隊に依存すことを却て軍馬の補助として盛
んにケリラ新を行ふ様に指導しこそ且平素から一
定の編成を定めてある。

我口に於ても予想すより更に一層勘の如き組織を強固
に編成して置く必要があつた。在苗原人の男子と云ふ男
子を悉く軍事召集して詰つた惣士子を踏頭に速は
しめる所あたり方は不可ひあつた。

一方在苗原人をして往々軍に依存することなく却て軍の作
業に貢献して活躍し得る如く訓練して置くべきであつた
此の組織と軍力が民間に十分あるは關係軍をしては往々
に情勢を一般の松風すみで於ての处置を全く失ふが
如き醜態を露せなくてよかつたらあらう又仮令十分
うよく行かほどの全責任を軍の手のみ負はせしむれ
所へたゞあらう

8. 終焉向際に於ける軍部の回顧は尚一層行ふべきであつた
師団は終戦の直前、内地方面から移せば敵が多か
つたから内地の状況を知りて審査自肅が徹底しておれば

し入る難後各方面より同の行動による特下ち有級の行ひ
地方人と第國を面して不和を加深する例を多く有り
古物に補給廠關係が多様である

9. 滿人の指揮は高寛大おほらかに行ひ（き）あつた

終戦時の滿人の亂暴狼藉は我の十年の努力を一空
に崩壊せしめ氣を感かうるは彼等の軍の平民
性を依ること勿論であるが一方心なき日本人の行つた罪悪

12. 対する反感の爆發と見えた。

本議會に於て我等日本人の本領を真剣に見受けられ
深刻に反省すべき事が多い

將來と日本は中日や朝鮮との關係は益々深くす
て来ると思はるが我の日本人は至る所の井然的偏見を
断然捨て去つて大日本としての一歩を進め更に彼等と
新らしい握手を交すことが必當である

結 言

之を要するに師団は昭和三十一年三月編成完結す八月征戰
終結、到了漢ガ古ケ日の存在を失ふが其間師団長を
中止とし一致團結教育と第國に只管萬遍に將來は
強力な師団となる事を予想一得た

然るに戦争の結果は悲惨なる敗戦とし幾多の忠
勇なる英靈は空しく孫吳の土地に誰訪う者もなく埋
もれ、既に三十一年載の痛恨をもつて我等は此に初
を到す時山室に断腸の思を禁むる事が出来ない
希ムは之等の英靈の意をあんじ模共吊魂し得る
の事無からずならん事を

以 上